

【CL名】菅原さん 【解答者】アオちゃん 【作成日】2023年(0月21日) 【作成時間】40分

設問

【問い1】今ならどのような質問ができるか。

- ・「父親と同じ道を辿らねえんだな」と仰いましたが、父親と同じ道とはどういうことでしょうか?
- ・「卑屈になったっていらんぞかぬ」と仰いましたが、卑屈になったというのとはどういうことでしょうか?
- ・「歴史の研究が好きだ」と仰いましたが、歴史の研究のどのようなところが好きなのでしょう?
- ・「こういうところで働きたいな」と仰いましたが、どういうところで働きたいのでしょうか?
- ・「気持ちが持ち上がらない」と同僚が仰っていますが、改めてそれはどういうお気持ちでしょうか?
- ・「気持ちが持ち上がらない」と仰いましたが、そのような思いはどなたかに話してありますか?

【問い2】良かった点と悪かった点(各2行)

事例IのCCt8 (相応しい・相応しくない)

理由: (仕事をしようとは思っていても気持ちが持ち上がらない思いを傾聴し、大学進学を断念せざるを得なかったことや当時の自分をかみそりに思う気持ちを伺えたので信頼関係が構築できつつある点)

事例IIのCCt9 (相応しい・相応しくない)

理由: (仕事について前向きに考え出していない思いに焦点を当てることを優先したため、相談者が今抱えている思いをどなたかに話しているか、周りの方との関係性が伺えたのが悪かった点)

【問い3】クライアントの主訴

(仕事をしようとは思っているが、気持ちが持ち上がらず、楽しくない仕事をしてお金を稼ぐ人は勝ち組で、この年で働いていない自分は負け組と感している。高卒で苦学して父親の話を子どもの頃から聞き、自分は大学に行くものだと思いつつ勉強をがんばって合格したが、金銭的準備で断念せざるを得なかった。父親と同じ道を辿ってしまうと感し、卑屈になっていた。当時の自分を振り返ると、かわいそらだと思いつつ今までいろいろな仕事をしてきたがやりがいを感じたことがなく、仕事に向いているのかも思いついていない。)

【問い4】今後の展開(どのように進めるか)

大学進学を断念せざるを得なかった相談者に寄り添い、引き続き信頼関係を構築するよう努める。自分が希望していた進路選択や就職活動ができなかったことへの思いを傾聴し、気持ちを整理する。その上で、これから仕事をする上で大切にしたい価値観を、これまでの経験を振り返りながら明確になるように促す。これから選択できる職業について視野が狭まっているように見受けられるので、Job-portalの職業情報提供サイトを活用しながら幅広い選択肢を検討した上で、一緒に就職活動の行動計画を立てる。これにより、相談者が主体的に今後のキャリアを構築できるよう支援する。